

# 往来子新聞

地震が恐いですね。防災が「あまん」で備えましょう。

## この日の魔術師 翻訳家東江一紀の世界

アア開催にあたって

寄稿: 越前敏弥氏

(文芸翻訳者)

昨年の六月、東江一紀さんが他界なさいました。まだ六十二歳の若さでした。

東江さんの翻訳は、原文の声を注意深く聞きながら、的確かつ豊饒な表現を積み重ねていく、圧倒的なことばの力を感ぜさせるものでした。東江さんと、その影響を直接面接に受けた数多くの翻訳家たちが、出版翻訳全体のレベルをどれほど向上させてきたかは計り知れません。

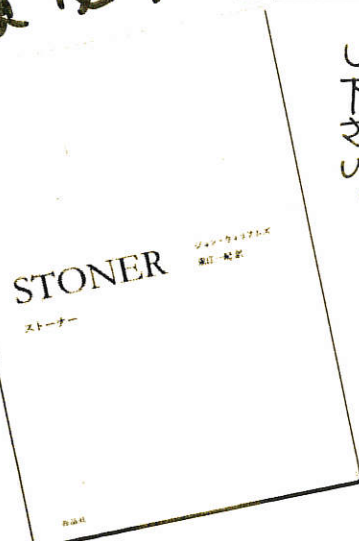
このミス터리がすごい！海外部門で一位になった日大の力や、逝去の前日まで訳

出に取り組んでいた「ストーリー」など、わかりやすく力強い訳文による名作の数々は、海外文学を読み慣れていない人にとっても大きな衝撃となるはずです。翻訳者は訳文を通して人々の心に生きつづけます。どうぞこの機会に「ことばの魔術師」による訳書を手にとってみてください。

**ポイント** 6月13日(土)  
名言、珍訳の紹介が 15:00~16:30  
布施由紀子 (翻訳家、「ストーリー」翻訳協力者)  
越前敏弥 (翻訳家)  
不忍通ふれあい館にて 参加費 ¥500  
(エド下ホール)

### 第一回日本翻訳大賞 読者賞受賞!

『ストーリー』  
ジョン・ウィリアムズ著  
東江一紀訳  
作品社  
完璧に美しい小説



メールマガジン  
ももんが通信  
往来堂サイト左下より  
お申し込みくださいませ

往来堂書店  
〒113-0022  
東京都文京区  
千駄木2-47-11  
10:00-23:00  
電話&FAX  
03-5685-0807  
maido@ohraido.com  
ohraido.com  
発行人 笈入建志

いまなら  
サイン本  
あり  
「ニューヨークで  
近藤聡ろ

「ほんほん  
本の旅あるぞ」  
南院橋系愛蔵  
陸軍系編集センター  
1/28  
刊

### 月にいちどの特売日!!

600ポイント使うと(現金払いなら)  
2015年5月は  
29(金), 30(土) **7%OFF!**

本の話をしよう  
\*  
読書サロシ  
\*  
毎月第二火曜19時~20時  
千代田図書館にて  
お問い合わせ  
JRAC首都圏支部まで  
jrac.shutoken@gmail.com

*Negla*  
本棚とか、  
本立てとか、  
柴とか、あるかも  
古道具 ネクラ  
www.negla.net

読書の友達  
旅ページル  
www.tabibagel.net

広告募集中

# 往来堂お客様アンケート ④

お探しの本は往来堂にごございましたか?

あった                      なかった

↓ 具体的に なにもお探してましたか?

置いてほしい本、発売させてほしいジャンルは?

その他、ご要望がございましたらどうぞ!

お名前 または ポイントカードno. 下5ケ

入口横の木のポスト または  
FAX 03・5685・0851まで  
ご協力 ありがとうございました!

## 防災の本。



新書コーナーでは『防災かあさん』（羽鳥書店）、『天災から日本史を読みなおす』（磯田道史・中公）、『東海・東南海・南海 巨大連動地震』（高嶋哲夫・集英社）、『ドキュメント御嶽山大噴火』（ヤマケイ）、『火山入門 日本誕生から破局噴火まで』（島村英紀・NHK）、『富士山噴火』（鎌田浩毅・講談社ブルーバックス）。楽しみながら勉強したい向きには文庫のコーナーの高嶋哲夫さんのパニックシミュレーション小説、『死都日本』『震災列島』（石黒耀・講談社）、『日本沈没』（小松左京・小学館）



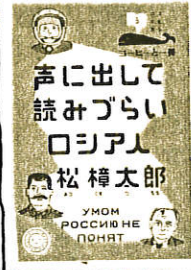
はなつとば？  
本を南くに  
やってきた。

往来、子新聞 第135号(通算141号)  
『ミニマ社から新シリーズ』  
『コーヒーと一冊』 3点同時刊行。  
もともと本を読む、というのほけこうツライことで、例えば満員電車で他に邪魔なことがないから、読書がはかどるなんてことは昔から言ってきた。だから生活が変わって電車に乗らなくなると途端に本が読めなくなる。そへスマホが



なんていうスキマ時間まであの手この手

でくる。なんか時間を有効に使っている気がするもんね。でも僕の場合、よく考えたらたいしたことはしてなかった。だから、スマホやめましたよ。がラケーにしたら月に5千円浮いた。本が買えます。加えてひとつづきの没頭できる時間と、ひとまとまりの存在感の



ア 耀・講談社)、『日本沈没』（小松左京・小学館）はやり過ぎたか・・・今のところ文庫の小説のほうがよく売れています。

ある(他人の頭による)考え、そして一冊読み切ったというえた実感も一緒に。その第一歩に、このシリーズは企画されたやつです。  
あ、他の本みたいには違ふ。どきどき分本厚に利益を多く配分しています。そこまでするミニマ社、あ、から、

ミニマ社から新シリーズ  
『コーヒーと一冊』 3点同時刊行。

のままでいくと 町から本屋がなくなりす。地元でぬ。 どうせ買おうなら

